



## 助け合い推進会議会長賞

### 近所の皆に支えられている おやきばあさん

和田 文（長野市）

14年前に夫に先立たれ一人暮らしをしています。

長男は埼玉に、長女は東京にいますが、今年から定年になった長男が週末用事があればきてくれることが安心となり嬉しいです。今までも時々来てはくれましたが仕事があり遠慮していました。須坂の姪や松代の甥も電話すればすぐ用事をしてくれます。昔から百姓しかした事がない自分は、裏の畑で野菜を作り毎日子供たちや、千葉と川崎の姪に送ることが仕事です。

10年前より紫斑病で今も定期的に通院中で、腰椎狭窄症で腰が悪くやっと歩いている状態です。室内はシルバーカーを押しています。難病があるため腰の手術はできません。腰、膝の痛みとはシップと特殊な入浴剤で入浴をすることが治療です。

去年までは、少し離れた「かどや」さんに毎日お茶を飲みに寄せてもらっていました。おばさんは全盲で、おじさんはタバコ屋さんをしているお宅です。おじさんが

留守の時はお婆さんの代わりお客さんが来ても私が目の役割をしていました。お茶のみのお茶請けは私がみんな用意してシルバーカーで運動を兼ねて行っていました。店なのでいろんな人が出入りし、お茶飲みサロンのように賑やかでしたが、お婆さんが体調を崩し入退院を繰り返しお茶のみができなくなり今度自宅にみんなを呼んでお茶飲みをしています。親戚にあたる前の家は困ったことがあればすぐお願いして、作ったものを食べてもらったり、野菜を運んだり、お茶飲みに呼んでもらったりしてます。隣の松橋さんは自分ができない料理を鍋ごと運んでくれます。原田さんは毎日のように産地直送の魚を持ってきてくれます。自分のできることは、みんなに作った野菜で漬物、おやき、五目御飯、煮物、煮豆など毎回メニューを考え、ある物で喜んでもらっています。みんなに来てもらい話をする事、作ったおやきなどみんな喜んで食べてくれることが私の生きがいになっています。前の家は、店をやっているのをお願いと声をかけるとすぐとんできて様子を見てくれ、孫や、娘の旦那さんもみんなで出入りして賑わしてくれ、買い物など気楽に頼んでいます。松橋さんは、転勤している時、お婆あちゃんの面倒をみてもらい、安心して転勤できたといってくれ「今度は自分ができることをさせて」と言います。原田さんは「おやきが食べたい」「奈良漬ちょうだい」「ネギちょうだい」など私ができるもので、喜んでもらい、

喜んで毎日せっせと作っている毎日が 87 歳を元気にしてくれています。食べ残ったものはみんな持ち帰ってくれるのもありがたいです。子供たちはみんなに見守られ子供の私たちが何もしないで申し訳ないといつも感謝しています。今の自分があるのは毎日だれか誰か来て話をしてくれるからだと思います。病気になり 70 歳まで働き、まわりのことも考えないで黙々頑張ってきたが、今まで自分のしたことでみんなが恩返しだと言ってくれ、今が一番幸せで、感謝、感謝の毎日です。いつ死んでもいい様に子供たちには、大事な物のある場所、親類の付き合いなど事細かに伝えてますが、「何言ってるの」と知らん顔されています。

みんなに「どうしてこんなにできるか」と聞かれるが、「椅子にかけて出来ることだから」と答えます。兄妹で一番長生きしているので、動けなくなるまで今の生活を維持したいと思っています。「みんなに支えられたから」これからもお茶のみサロンを続けていきたいです。みんなにもお願いしやっていききたい。病気とも仲良くしていきたい。

先日主治医に「もう少し動けたら」と言ったら「寝たきりになる方もいます。病院にこれだけいいと思ひましょう」と言われ欲張っている自分にちょっと恥ずかしかったです。みんなありがとう。



